

抗がん剤治療を 受けられる方へ

【アバスチン＋タキソール（パクリタキセル）療法】



さいたま赤十字病院

どんなお薬を使うの？

アバスチン

『アバスチン』は、「分子標的治療薬」と呼ばれる抗がん剤の一つです。

がん細胞に栄養や酸素を運ぶ新しい血管がつくられるのを妨げて、がん細胞を兵糧攻めにする「血管新生阻害」の作用のある薬です

タキソール（パクリタキセル）

『パクリタキセル』は、「タキサン系抗がん剤」と呼ばれるグループに属していて、太平洋イチイという樹木の樹皮から取り出した成分で作られたお薬です。

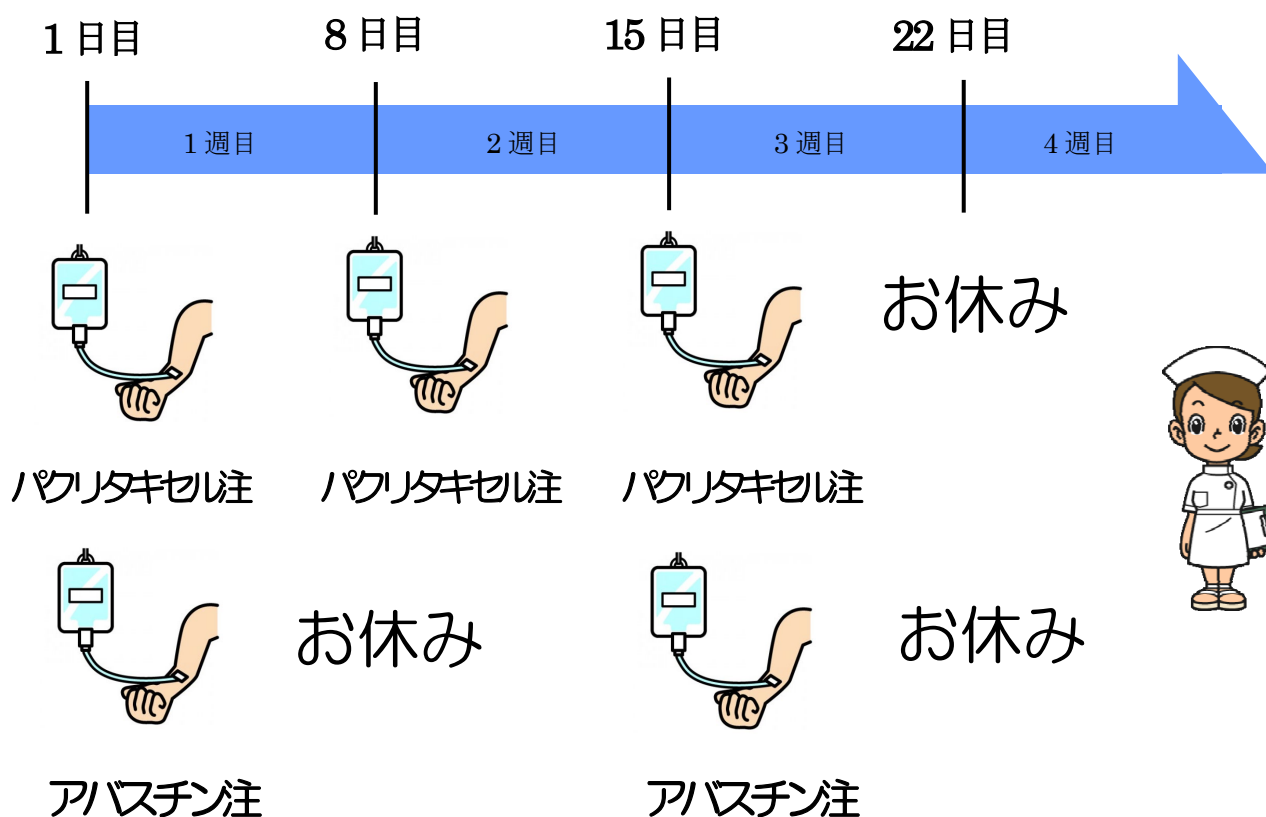
このお薬は、がん細胞が分裂する際に現れる「微小管(びしょうかん)」に働きかけ、がん細胞の分裂を阻止する作用をもっています。日本でも各種のがんの治療に用いられています。

投与スケジュール

アバスチン+タキソール（パクリタキセル）療法

標準的な投与スケジュール

第1日目に副作用(悪心・嘔吐)を予防するための薬剤を投与した後にパクリタキセル→アバスチンの順に静脈内に点滴で投与します。その後、パクリタキセルは毎週投与し1週休薬、アバスチンは2週に1回投与し、このスケジュールを繰り返して行っていきます。



点滴の流れ（1日目、15日目）

点滴開始

お薬の作用

ポラミン
ガスター
デカドロン
15分

アレルギー予防
吐き気止め

グラニセトロン
30分

吐き気止め

パクリタキセル
60分

抗がん剤

※アルコール含有

生食液 5分

点滴ラインの洗浄

アバスチン
90分

抗がん剤

（30分まで短縮可能）

生食液 5分

点滴ラインの洗浄

約3時間30分

点滴の流れ（8日目）

点滴開始

お薬の作用

ポラミン
ガスター
デカドロン
15分

アレルギー予防
吐き気止め

グラニセトロン
30分

吐き気止め

パクリタキセル
60分

抗がん剤
※アルコール含有

生食液 5分

点滴ラインの洗浄

約2時間

点滴を受ける際の注意

このお薬は点滴注射の際、わずかな漏れでも皮膚に障害をおこすことがあります。点滴注射中は下記の点にご注意ください。

- お薬が血管の外に漏れないよう、点滴注射中は安静にしてください。
- 点滴注射中に注射部位が腫れたり、痛みや灼熱感(焼けるような熱さ)を感じたりする時は、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。
- 点滴注射中にかゆみや発疹、火照り感、胸苦しさ、吐き気、腹痛など、少しでも気分が悪くなったら、我慢せずに、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。



予想される主な副作用と対策

副作用には個人差があり、種類や程度もさまざまです。以下に予想される副作用とその対策についてご紹介しますので参考にしてください。

筋肉痛、関節痛



お薬を投与して2～3日後に、肩や背中、腰や腕などの筋肉が痛くなったり、関節が痛くなることがあります。この症状は、ほとんどの場合は一時的で5～6日以内に自然に回復します。

上記のような症状が出現し、我慢できない時は医師または看護師に相談しましょう。

痛みが継続したり、我慢できない痛みの場合、鎮痛剤や漢方薬を使用する場合があります。

関節や筋肉の痛みを防ぎ、重くならないために



- ・痛みのある部分を温めて(温浴、温湿布)みましょう。
- ・体の中心に向かってマッサージしてみましょう。
血行が促進され、症状が改善することがあります。

吐き気・嘔吐・食欲不振



吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状は、薬剤が消化管粘膜や嘔吐中枢を刺激することで起こります。

多くの患者さんにみられる副作用ですが、その予防として吐き気止めの薬を使用していきますので安心してください。ただし、症状や程度には個人差がありますので、辛い場合には早めに主治医へご相談ください。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

- 嘔吐が1日に何回も起こる。
- 嘔吐のため水分や食事がとれない。
- 吐き気が長期にわたって続いている。
- 吐き気のため、吐き気止めを飲むことができない。

吐き気・嘔吐を和らげる工夫(日常編)



- ・我慢せずに吐き気止めを積極的に服用しましょう。
- ・食後はすぐに横にならない。
- ・映画や音楽などでリラックスを試みましょう。
- ・吐き気が生じたら、ゆっくり呼吸しましょう。
- ・体をしめつけるような衣類は避けましょう。

手足のしびれ



お薬を投与して3～5日後ぐらいから、手や足がしびれたり、刺すような痛みがあったり、感覚が鈍くなったりすることがあります。これは手足の神経細胞が傷害されるために起こると考えられています。また、投与する回数が増えるほど発現しやすく、持続するようになります。症状が軽い場合には自然回復も早いですが、症状が強い場合には回復に時間がかかります。

上記のような症状が出現し、**気になる時は我慢せずに医師または薬剤師、看護師に相談しましょう。**

しびれ感や痛みが継続したり、日常生活に支障をきたす場合は、お薬を減量したり、一時休薬したりします。

また、症状によりビタミン剤や鎮痛剤、漢方薬を使用する場合があります。

手足のしびれを防ぎ、重くならないために

- ・重いものはなるべく持たないようにしましょう。
- ・つらい時は無理せず、家族の方に手伝ってもらいましょう。
- ・温感が鈍るので、特に火傷などに注意しましょう。



骨髄抑制

【採血検査でわかる副作用】



血液の中には白血球、赤血球、血小板という3つの成分があります。これらは骨髄という、いわば血液生産工場で作られています。骨髄の機能が抗がん剤の影響を受けて低下することを骨髄抑制といいます。

白血球の減少



骨髄抑制により、細菌から体を守る役割を担う白血球(特に好中球という成分)が一時的に著しく減少し、体の抵抗力が低下して風邪や肺炎などの感染症が起こりやすい状況になります。点滴終了後5~10日後に最も少なくなり、その後7~10日程度でもとの値に戻ります。点滴後1~2週間ぐらいは感染しやすい時期ですのでとくに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

感染症の徴候

- 38℃以上の熱が持続する。
- 寒気がする。
- せきが出る。
- のどの痛みがある。
- 排尿時の痛み。
- 頻尿。
- 軟便、下痢が続く。

感染症を予防するための対策



- 外出から戻ったときや、トイレ、食事の前後は手をよく洗い、こまめにうがいをしましょう。
- 外出時はマスクを着用し、できるだけ人混みは避けてください。また、風邪などの感染症にかかっている人には近づかないようにしましょう。
- 歯を磨くときは、口の中を傷つけないように、柔らかく清潔な歯ブラシを使ってやさしく磨きましょう。
- 短時間の手早いシャワーを浴びるなどして、身体を清潔に保つようにしてください。
- 排便後の肛門周囲を清潔にして傷などをつけないようにいねいに扱ってください。
- 皮膚に小さな傷がついた場合は放置せずに、消毒剤をつけるなどして、十分手当てをしておきましょう。
- 刃物を使う時、アイロンがけや、料理の時の火傷などに気をつけましょう。
- 主治医に相談せずに予防接種を受けないようにしましょう。

赤血球の減少



骨髄抑制により、全身に栄養(酸素)を運ぶ役割を担う赤血球を一時的に減少させ、全身の酸素量が低下してめまいや息切れなどの貧血症状が起こりやすい状況になります。本療法を数コース続けると、起きることがあります。治療が終了すればもとの値に戻ります。点滴注射を続けて数週～数ヶ月くらいに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

貧血の徴候

- 息切れ。
- 疲れやすい。
- さむけ。
- めまい。
- 頭が重い。

極度の貧血の場合、輸血をすることがあります。

貧血になったら



- ・ 十分な休養と睡眠をとり、無理をしないようにしましょう。
- ・ 動き始めるときはゆっくりと(起き上がり、立ち上がり)
- ・ 急激な運動(走る、階段を駆け上がる等)は避けましょう。

血小板の減少



骨髄抑制により、血液を固まらせる役割を担う血小板を一時的に減少させ、鼻血、内出血、歯ぐきからの出血などの症状が起こりやすい状況になります。本療法の点滴終了後1週間ぐらいすると起きることがあります。治療が終了すればもとの値に戻ります。点滴後1週間目ぐらいに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

血小板減少の徴候

- 鼻血が出やすい。
- 歯ぐきから出血し易い。
- 青あざがでやすい。
- 血が止まりにくい。
- 血尿。

出血傾向がみられる場合、血小板輸血をすることがあります。

出血しやすくなったら



- ・ 歯ブラシは、柔らかいものを使いましょう。
- ・ 鼻をかむ時は、強くかまないようにしましょう。
- ・ 刃物などを使う時は、けがに注意しましょう。

脱毛



脱毛は、治療を開始して2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が抜け始め、1～2週間かけて抜け落ちます。抜け方には個人差があり、少しずつ薄くなる人もいれば、大量に頭髮が抜ける人もいます。また、頭髮だけでなく、眉毛、まつ毛など全身の体毛にもおこります。脱毛は治療による一時的な副作用です。治療が終了し、しばらくすると生え始め、約6ヶ月程度で回復しますが、さらに時間がかかることもあります。

脱毛の対策



- 急に髪が抜けてくることが多いため、精神的に落ち込みやすくなります。事前にウィッグ、ナイトキャップや帽子、スカーフ、バンダナ等を用意しておくことで、心の準備をしておくとい良いでしょう。
- 髪をあらかじめ短くしておく、脱毛が起きた際に処理しやすいです。また洗髪は爪を立てず、やさしく行いましょう。脱毛が起きる際にピリピリ感を感じることがあります。いつも使っているシャンプーでしみるようならば、刺激の少ないシャンプーを使うと効果的です。

口内炎



口内炎は治療を開始して5～14日目頃より、口の中がヒリヒリする症状が出てくることがあります。

口内炎ができると舌や口の粘膜があれたり潰瘍ができて、食べ物がしみたり、口の中が腫れたりします。

口内炎は確実な治療法がないので、予防がもっとも大切です。口内炎のほとんどは治療終了後に回復します。

口内炎がひどくなると、食事がとれず体力が低下する場合があります。**口内炎ができたなら、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。**

口内炎の予防と対策



- 食後は歯ぐきを傷つけないように柔らかい歯ブラシで、きちんと歯を磨きましょう。
- 外出から帰宅した時、毎食後、ねる前に水又は医師から処方されたうがい薬でまめにうがいをしましょう。
- 熱い食事は口や喉に刺激となるので、冷たい物や室温程度に冷めたものを食べるようにしましょう。
- 酸味の強いもの、スパイスをきかせたもの、塩辛いものは、なるべく食べないようにしましょう。

下痢



症状は通常の下痢と同様です。しかし抗がん剤使用後1週間目に生じた下痢は、一時的ではなく長期化しやすいため、注意が必要です。

1日に何回も下痢になったり、水分も摂れない場合は、我慢せずに、**医師または看護師に連絡をしましょう。**

下痢が続く時の対処



- ・乳製品、香辛料を使ったもの、脂っこいもの、食物繊維の多いもの、匂いの強いものは避けましょう。
- ・脱水症状になるのを防ぐため、スポーツドリンクなどで十分に水分をとりましょう。

便秘



便秘は、お薬による影響が大きいです。が、食事の影響や運動不足が原因の場合もあります。便秘時には下剤で対応してきます。

便秘が続く時の対処



- ・水分を十分とり、食物繊維の多いものをとりましょう。
- ・軽い運動をする様に心がけましょう。

皮膚、爪の変化



治療を開始して数週間後から皮膚にしみができたり、爪が変色や変形することがあります。これらの症状は治療が終了すれば徐々に回復してきます。

爪の変化時の対応



- ・ 爪は短く切りそろえ、清潔にしておきましょう。
- ・ マニキュアでコーティングしてもよいでしょう。

倦怠感



治療を開始して数日後からからだが重い、疲れやすいといった倦怠感を感じることがありますが、治療による原因が多いので必要以上に心配することはありません。

日常生活での対応

- ・ だるい時は無理せず体を休めましょう。
- ・ 急な動きはせず、ゆっくりと体を動かしましょう。
- ・ 趣味や音楽などで気をまぎらわせるもの良いでしょう。
- ・ 主婦の方は、家事はできる範囲内で行い、家族の協力もお願いしましょう。

高血圧



治療中に血圧が上がる事があります。急激に血圧が上がる事もあり、定期的に血圧を測定することが大切です。必要によっては、降圧剤で対応します。

尿タンパク



尿中に通常よりも多い量のタンパクがみられる事があります。定期的に尿検査を行います。タンパク量が多くなった場合にはしばらく休薬する事があります。

出血、傷の治り



粘膜から軽度の出血がみられることがあります。鼻血、歯ぐきなどからの出血は通常軽いことが多いです。また、傷口が治りにくくなることもあります。

すぐにお知らせください



- 出血が10～15分たっても止まらない
- 手術した傷口がひらく、出血する
- 血便・タール便が出る

【まれだが、注意が必要な症状】



間質性肺炎



抗がん剤が原因で起こる肺炎です。症状としては、「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」などがみられます。これらの症状が急に出現したり、持続したりした場合には、早々に病院に連絡してください。

血栓塞栓症



血管の中に血のかたまり（血栓）が出来る可能性があります。強いめまいや麻痺、胸の強い痛みには注意が必要です。これらの症状が急に出現したり、持続したりした場合には、早々に病院に連絡してください。

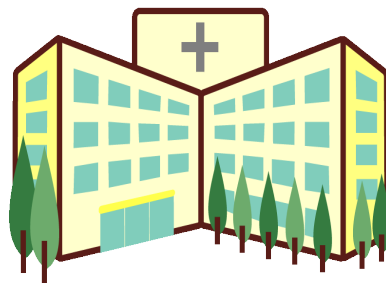
消化管穿孔



消化管に穴があく可能性があります。経験のない強い腹痛や嘔吐が現れた場合は、痛み止めを服用せず、すぐに連絡してください。

以上が代表的な副作用ですが、これ以外にも予期せぬ副作用があらわれることがあります。

気になる症状やいつもと違う症状がある場合は、どんな些細なことでも我慢せずに医師または看護師、薬剤師にご相談ください。



連絡先(平日 8:30~17:00)

〒330-8553

埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5

TEL：048-852-1111(代表)

外来化学療法室